

# High ♥ Line Wakabayashi はいらいん若林

みんなでここさ

入らいん!

若林区まちづくり協議会会報

2010.3.31

Vol. **13**

若林区  
探訪  
その一

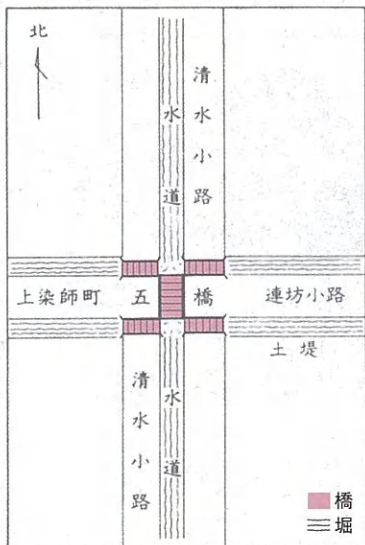
## 詩情豊かな「水の都」から 近代建築ビル街へ 清水小路・五橋

若林区の北西部に位置する清水小路・五橋。かつてこの地は歴史に名を残す「水の都」でした。しかし今では、オフィス街、マンション群、交通量の多い交差点と化し、昔のおもかげは垣間見ることもできません。藩政時代、この辺りは一体どんな様子だったのでしょうか。町名の由来を探りながら、いにしへのロマン薫る城下町に思いを馳せてみませんか。"もっと若林が好きになるかも知れません。"

### 清水が湧き出たところ、 清水小路

清水小路の「清水(しみず)」は「澄水(すみみず)」の約で、かつてこの地帯には「大清水(おおしみず)」と呼ばれる大湧泉を始めとして、いたる所から地上にこんこんと湧き出てくる清水がありました。

また、伊達政宗の時代の町割り、屋敷割りにより、ここに侍屋敷が置かれ、小路には中身侍が門を並べていましたが、それぞれの屋敷の清泉から流れ出る水と清水の水とを集めて町内堀へ流したといわれます。これらのこ



▲かつての五橋交差点の略図

とから「清水小路」という町名が生まれました。夏になると多くの梅花藻の花が咲き、風流人に親しまれたようです。

### 町内堀に「工」の形に 五つの橋 五橋

清水小路の中央を流れる堀と、連坊小路を流れる二筋の堀が交差したところに、「工」の形に五つの橋がかかっていたことから、「五つ橋」と命名されました。この五つの橋は、梅の花の五輪にたとえて「梅花橋」とも呼ばれ、さらに一つ一つの橋には、「天の浮橋」「国の浮橋」「人の浮橋」「心の浮橋」「まことの浮橋」という呼び名がついていたようです。

### 名実ともに 水の都として

清水小路の清水は、明治三十二年から八年間にわたって水質検査をした



▲移転前の日赤病院 中庭の池

記録によると、ランクは「甲(Aクラス)」。堀には芹が生え、鮠が泳いでいて、道端の清水には柄杓がそえてあり、道行く人は、この水で喉をうるおしました。夜には蛍が飛び交い、名実ともに「水の都」と呼べる環境であったようです。こんな風情も今は夢のまた夢、最後の清水として記憶に残っていた仙台赤十字病院(現在の仙台福祉プラザ)の中庭の池も、一九八二年の同院移転にもなつて埋め立てられてしまいました。今は昔を偲ぶよすががありませんが、ふと足を止め、いにしへの「水の都」を思い浮かべながら、ロマンあふれる詩情を味わうのもいいかもしれませんね。《「仙台地名考」「仙台の由緒ある町名、通り名を訪ねて」参考》(引地 記)

### 会報の愛称

「はいらいん若林」とは

仙台弁の「入らいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)と line(ライン・路線、進路などの意)とをかさねあわせた造語です。温かさより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。


≧「若林区まちづくり協議会」の新たなスタート≦

# 区民に顔がみえる「まち協」に!

## 「まち協」のありようについての懇談会



「まち協のありようについての懇談会」(まち懇)では、会長より委嘱を受けた、若林区内のまちづくりを担い、支えてこられた方々によって、昨年12月の発足以来、5回にわたって熱心に話し合いがなされてきました。今回その一部をご紹介します、区民の皆様と一緒に考えてみたいと思います。



「若林区まちづくり協議会」(まち協)も、今年で10年の節目を迎えます。そこで、今回、会長の私的諮問機関として「まち協のありようについての懇談会」(まち懇)を発足させ、より住みよいまちづくりのための話し合いの場としました。ここで出された意見が、何らかの形で区民の皆様へ届き、お声を聞くことで、「まち協」のこれからの「ありよう」を皆様と一緒に考えていきたいと願っています。若林区のより一層の発展のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

若林区まちづくり協議会会長 齋藤 喜一郎



目的や理念を再認識しよう

「区民一人一人の総意と参加により、住みよい魅力のあるまち若林区を目指し、行政と協働によるまちづくりの推進を目的とする」でした。これを踏まえての意見をいただきます。

佐々木(正) そもそも「まち協」は町内会の集合体である「区連協」から起こったもので、その文化事業面を担った「新しい社」の都づくり若林区協議会(「新社」)が母体です。しかし、「新社」からの移行時にまち協の趣旨や理念が区民に必ずしも充分に伝わっていません。この事実です。日下、まちづくりにはずみアクション(事業)あるのみで「目的、手段や事業が先行して」動きや理念が後手に回ってしまったりかやれてきました。しかし、組織として機能しない現状では健全とは言えません。根本の論議がなされなままに見逃ごされてきた結果では……。

司会 やはり「まち協」の共



佐々木(正) 「合唱のつどい」では、小・中・高校の合唱部とのつながりをもつてい……

佐々木(正) 今、区民との



「区民に存在を知ってもらおう」

司会 例え、区民まつり実行委員会は区民に見えていますが、主催者の「まち協」が区民に知られていないという状況があります。

佐々木(正) 私自身、実行委員として「合唱のつどい」などの各事業に関わっており、それが「まち協」の事業であるということ発信はしていません。

佐々木(正) 「まち協」はそれなりに実績があるのに、区民に存在を知られていないのは、広報活動がうまくいっていないのではないかと、区民に浸透する広報のあり方を工夫し、今後は「はいらいん若林」で「まち協」の顔を見ることが必要だと思います。

### これからはこんな「まち協」に

司会 いま一度「まち協」の「ありよう」について、今後に向けての意見をください。

佐々木(正) まずは、現在「まち協」の傘下にある事業及びそれに携わる人たちの全般の把握が急務です。また、独自に活動している他の団体の情報も把握できれば有効です。そして、今の活動を「広げる」のではなく、今ある人材と組織を見直して、活動を確実にしていくことが重要だと思います。そのために、各事業部の全体会議をもち、その結果を会報に反映させて区民にアピールしていくのはどうでしょうか。

日下 「まち協」には他区と違ったオリジナリティがある



「組織内外の横の連携をとろう」

司会 「まち協」の組織としての機能面ではどうでしょうか。

早坂 「区民まつり」や「合唱のつどい」などの各事業が、「まち協」の統率のない中で行われており、実質的な責任者の



「まち協」の組織として、行政との連携で実行できたらいいと思います。

司会 課題が見えてきました。佐々木(正) 例え「各事業の全体会議」や「名刺と情報交換会」は今すぐにもできることの一つではないでしょうか。日下、事業は最終目的ではなく手段なので、事業の評価を導入して目的を見失わな



姿も見えない状態です。組織の再編成も求められそうです。佐々木(正) 「まち協」の発足当初は、会長の下に各部会があり、各部会長を中心に動いていました。現在は、新規事業を立ち上げるときなどはどのようにして「まち協」の了承を得ているのでしょうか。日下 コンセンサスをとるよりも、事業を成功させることが先立って目的化しているのだと思います。

早坂 この議論が起こった今こそ根本に立ち戻り、定期的に役員会を開催するなど、組織としての動きをするようになってほしい。

佐々木(正) 横のつながりを大切にしたいものです。組織の内と外の横のつながりもとても大事です。

日下 「つながりづくり」がその他の課題と連動して、改善の突破口になるかもしれません。

佐々木(正) 次世代の人材づくりのためにも、地域活動が学校との連携を密にできるといいですね。「まち協」は世代を超えてつながりをつくり、様々な人から出るアイデアを吸い上げる場になるはずですよ。

**ご感想、ご意見を寄せてね!**

今回掲載しました(ありよう懇談会)を経て、「まち協」の新しい展開につながっていくと思えます。区民の多くの方のご感想ご意見をお寄せ下さい。今後の活動に反映させていきたいと考えております。

若林区まちづくり協議会  
事務局(若林区まちづくり推進課内)  
TEL 022-282-1111 内線 6136・6137(編集部)

問合せ先

(志子田 記)

# 地域の イベント仕掛人紹介

～薬師堂手づくり市実行委員会～



▲実行委員の皆さん



▲にぎわう手づくり市

「ひょうたんから駒が出る」木ノ下の薬師堂境内が、毎月8日手づくり市でにぎわっている。緑日の露店のようにたくさんのお店が列なる。手づくりの食やアート、雑貨や小物を介して話が弾む。お店を持ってない。お店をやりたい。自分で創ったものを売りたい。こんな思いの人たちでニギワイ市ができないかと場所探しをしていった実行委員長の佐藤正記さん。お薬師様の縁日に多くの方がお参りして文化財を知ってもらいたいという陸奥国分寺副住職の村山裕俊さん。高齢化が進み、近くで買い物できる店も少なくなり、なんとかしたいと思っていた木ノ下町内会長の高橋みさをさん。三者の願いが「手づくり市」という実になった。ほんほこ槍についている縁起物のひょうたん栽培も行う。

「何十年ぶりでお参りでできて、なつかしい」若い人と買い物しながらおしゃべりできて楽しい。買い手・売り手の間にいろいろな御縁が結ばれている。

市は、毎月8日、10時から16時。  
(本多 記)

## 知っていますか! 若林区まちづくり協議会 その3

平成22年度も若林区まちづくり協議会が催すさまざまなイベントや取り組みが予定されています。本会報の特集にありますように、若林区まちづくり協議会もより良い体制への変革に向けて話し合われています。より多くの区民が参画する若林区まちづくり協議会にして行きましょう。



5月

### 1 5月 役員会・総会

今年も5月に開催予定。平成22年度の「まち協」の運営や事業などについて審議します。会員の皆様のご出席をお待ちしています。

7月

### 3 7月 『はいらいん若林』の発行

次号は7月に発行予定。「まち協」の広報紙として若林のまちづくりにもっと関心を持ってもらえる紙面作りにはげんでいます。



8月

### 5 8～11月 若林区スポ・レク・フェスタ

8月8日(日)ソフトテニス～11月6日(土)少年少女柔道までスポーツを通して健康増進をはかります。老若男女、区民多くの方の参加を期待しています。



▶ 昨年の全国学童軟式野球大会(神宮)に出場した大和少年野球クラブ

10月

### 4 10月 若林区民ふるさとまつり



▲ステージ発表

今年は第22回、10月17日(日)区役所周辺で開催予定。ステージ有り、縁日有り、もり沢山のイベントを用意して、区民の皆様のご来場をお待ちしています。

※なお、実施内容及び期日については変更となる場合があります。

●●● 区民みんなで作るまちづくり、一人一人の力を結集しましょう。 ●●●

(西條 記)

## 若林区まちづくり協議会

..... 事務局 .....

若林区役所まちづくり推進課  
〒984-8601 若林区保春院前丁3-1  
TEL 282-1111

## 会報プロジェクト メンバー

リーダー 勝 又 久 雄  
西 條 芳 郎  
菅 井 てるみ  
本 多 や 糸 子  
引 地 よ しい  
志 子 田 喜 恵 子

## 編集後記

私の住む五十人町は、その昔に足軽五十人組が配置された町として今に町名を残しています。町内会のシンボルマークは、足軽が用いた陣笠を三つ重ねてデザイン化したもの。今、この旗印のもとに、町内会では地域コミュニティの再生が図られています。五十人町を縦に貫く東街道や伊達八幡神社等、歴史の息づかいが今にも聞こえてきそうなこの町に住まいする喜び。子どもたちが集い合うお祭や餅つき大会は地域コミュニティの原点です。私は、こんな若林区に住む喜びを分かち合いたくて、「まち協」の広報の仕事に携わっています。(志子田 記)